

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第44号(20130208)

発行 竹田 幸男



「団体PR映像制作体験教室」

開催

2月8日(金)例会前の午前中に寝屋川市民活動センター4階ワーキングスペースにて行いました。

市民活動センターが公募した

「体験教室」に映像協会として応募して当選したもので、昨年11月10日の「ふれあいフェスタ」に向けて同好会会員を含む映像協会会員が団体PR映像を制作した、その体験で得たノウハウを市民団体の方々に公開しようと実施したものです。当日は市民の方々、映像寝屋川の会員、そして同好会会員あわせて20名ほどが参加され、団体PR映像のサンプルや市民活動を題材にした映像を映写して参加者の関心を引きました。



例会の窓

平成25年2月例会

日 時 平成25年2月8日(金)

13:30～16:30

場 所 寝屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者 新井 石田 小笠原 佐伯 竹田 竹下 田淵 谷 (8名)

欠席者 天野 (50音別 敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 市民活動センター体験教室「団体PR映像制作体験教室」の件

- ・ 2月8日(金)10時～12時、市民活動センター4Fで実施
- ・ 団体の代表、映像協会会員など、20名余の参加で盛況であった。
- ・ 団体PR映像の作例も示して興味を持ってもらった
- ・ 囲碁、元気体操の団体が興味を示していた。
- ・ PRビデオ作成のポイント、狙いについての理解をしていただいた。
- ・ 団体側で撮影して欲しい活動と、協会会員が題材として求めているものが一致するものがあればお互いに幸いであることを強調した。

(2) 第2回文化連盟展の件

- ・ 2月10日(日)アルカスホールに於いて実施
- ・ 出品は4作品(竹田さん、映像寝屋川3作)上映時間30分。
- ・ 上映は、15時過ぎからの予定。
- ・ 座席よりも多くの入場券を発売しているので、早めの入場がお勧め。

(3) 映像北大阪との交流会の件

- ・ 2月16日(土),13時30分より守口中央公民館で開催
- ・ 寝屋川市駅、13時発の急行で間に合う。
- ・ 交流会終了後、飲み会、2,000円程度
- ・ 参加予定者 竹田、新井、谷、小笠原の皆さん。

(4) 第6回ビデオ作品発表会の件(一部既報の通り)

- ・ 10周年記念として行う。
- ・ 平成25年4月20日(土)実施
- ・ 3月中にプログラム作成が必要
- 4月初めの松愛会会報に折込

3月例会でプログラム配布

- ・ 出品予定作品
- ・ 竹田さんは、「琵琶湖疏水物語」「チェスキー・クルムロフ」
- ・ 竹下さんは、「ゆうちゃん 神戸花鳥園に遊ぶ」
- ・ 新井さんは、「寝屋川竹炭づくりの会」「画家たちの観光地」
- ・ 天野さんは 「ならまち」「思い出の場所 伏見」
- ・ 谷さんは 「孫と一緒に金剛山へ」

(5) 撮影会プロジェクトチームから(天野、新井)

- ・ 4～5月実施を目指して継続審議
- ・ 映像寝屋川の例会で天野さんの作品に意見が2つに分かれた。面白くて良いという人と、作品の価値がよく解らない人、あのようなフィクション作品は作れないという人と。
- ・ 作り物の作品に挑戦しても良いのではないか。
- ・ 有馬は温泉地としての舞台としては、難しさがあるのでは。
温泉地であれば、湯煙などが欲しい。
- ・ 神戸の港は、ストーリー作りの舞台としては適地と言える、という意見。
- ・ プロジェクトチームとして、再度検討して提案する。

(6) 編集援助の状況

- ・ ストーリーを考えて撮影していない(佐伯さん)
- ・ 出だし、エンディングをどうするかを考えると作り易い。
- ・ 取りあえず、来月の例会で「静止画」で挑戦することになった。

(7) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件

- ・ 次回担当 佐伯さん。

2. 作品発表

(1) 谷さん 「孫たちと金剛山へ」 8分00秒

- ・ 冬・夏の2回の登山の作品、「無事に帰る事ができました」で、終わりかと思ったら、夏の登山が始まり違和感がある。
- ・ タイトルを冬、夏に2度登山したことが分かるものに、また、つなぎ目にトランジションで場面の変わる効果を入れると良いのでは。
- ・ 現地音が大きすぎる。現地音を下げ、ナレーションを大きく。
- ・ 山の標高をテキストで入れると良い。
- ・ 鳥の名前のシーンに、場所説明などのナレーションを入れては。

(2) 新井さん 「画家たちの観光地」 9分40秒

- ・「です・ます」調のナレーションの方が良いのでは。
- ・ナレーションは、谷さんをお願いしている。

「寝屋川竹炭づくりの会」 9分56秒

- ・ナレーションに、短い文章が多い。2つをまとめる等の工夫をされては。

(3) 竹下さん 「ゆうちゃん 神戸花鳥園に遊ぶ」 10分00秒

- ・鳥の飛ぶ場面と説明の部分が長い。
- ・連続性を考えると短縮がむづかしいが・・・(竹下さん)
- ・シーンの真ん中辺りの削除を考えては？

(4) 竹田さん

- ・「ボヘミア珠玉のまち チェスキー・クルムロフ」 5分25秒
- ・「インクライン 琵琶湖疏水物語」 9分56秒

3. 次回例会

- ・3月8日(金) 13:30～
- ・寝屋川市市民活動センター 4階 こども部屋
- ・カメラ担当：田淵さん。



恥の文化

佐伯 節子

先日、『湯快リゾートの旅』で鳥羽に行ってきた。
新大阪から出発するバスは満席。

我々はシニア8人グループ。若者グループや夫婦での参加も結構あり。

竹田会長から、カメラ撮影での編集もひとつの作品作りとしてありと言われたので、後先考えずに写しまくり。それは別として・・・

伊勢内宮前のおかげ横丁で、名物の「伊勢うどん」や「手こね寿司」「さんま寿司」「焼き牡蠣」を各々がシェアして食べる。どれも美味。

恥その1・向かいの卓に座る家族連れが何か気になり、よく見ると(多分ジロジロ見たかも)斜め座りで、肘をついた手で箸を使う姿。それが子連れの30代の女性。その向かいの50代の女性もずっと斜め座り。私も膝を痛めてから行儀悪い座り方をしているが、食事の時だけは正座しないと気持ち悪い。そ

のように躰けられた。行儀悪いことを恥とした。

恥その2・車中、若者グループの声のトーンが高いからか騒々しい。しかし我々おばさんグループのお喋りも、彼らからするとうるさいだろうね・・・受け止め方は人それぞれ。うるさいと取るか、楽しそうでいいねととるか。旅を楽しむことは良いことだけど、ある程度節度が欲しいものだ。他人に迷惑をかけることも恥じること。

ホテルでの夕食はバイキング。アルコールが入って若者の騒々しさがヒートアップ。仕方がない。狭い車中ではないし、おおいに楽しんでちょうだい。

恥その3・バイキングの料理に我さきにと群がる姿は恥ずかしい。おしぼりをどっさり持っていくおばさんもみっともないと思う。でもいつの間にか、私もそういう人種になってしまった。誰も見ていないかとキョロキョロするより、自分に恥じない生き方をしたい。

恥その4・温泉で気付いたこと。脱衣カゴからだらりと伸びた衣類の端。洗面台の前で浴衣のまま大股開きで座るうら若き女性(スパッツは履いていた)。彼女たちの文化は浴衣の下に履いていればOKなのかな？食堂でも、膝を組む浴衣の前がはだけて太ももまで露わ。

それは恥ではないのかな？ファッションなのかしら？誰に迷惑かけるわけではないし、というところなのかな。慎みなんていう言葉は無くなった？疑問がいったいの恥の文化。

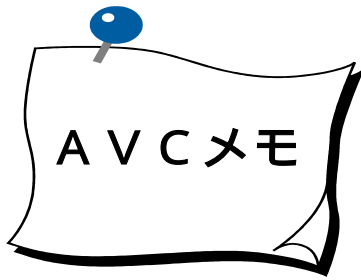
恥その5・お風呂から帰ったときにのぼせて、部屋を間違えたらしい。鍵をガチャガチャしていたら中からパンツ1丁のおじさんが出てきた。これは赤っ恥。

この手の恥はしょっちゅうかいている。

こう書いていくと、恥にも色々あるのだなと思う。なんだか口うるさいおばさんの独り言になってしまった。もっと大きな恥もあるだろうが。

恥を知れ・恥知らず・恥かきっ子・恥も外聞もなく・恥ずかしがり屋・恥の上塗り・厚顔無恥etc日本人は「恥」という言葉が好きな民族だな。

何を「恥」とするかは、時代によって変わるものだろうが大事にしたい。



4 K

竹田 幸男

なんと呼びますか、「よんけー」または「フォーケー」どちらでもいいようです。「4 K 2 K」という呼び方もあるようです。

NHKがアナログのBSハイビジョンの実験放送を始めたのが平成元年6月3日、BSデジタルの放送開始が平成12年12月1日で、ハイビジョンがやっと浸透したと思ったら、もう次の伏兵がやって来ました。

4 Kとは横3840×縦2160ドットの画面を持つテレビ(テレビモニター)で、1920×1080ドットのフルハイビジョンに対して縦・横とも、それぞれ2倍の画素数になっており、「フルHD」に対して、こちらは「ウルトラHD」と呼ばれています。もう対応するテレビも売られていますが(ソニー KD84X9000、実売168万円など)、実際にはまだテレビ放送が無く、パッケージ映像を見るか、ハイビジョン放送をアップコンバートして高精細化してみるしか無い現状です。現状では医学用途や工業用途が先行するでしょう。

一方フィルムを使わないデジタルシネマでは4096×2160ドットを4kとしています。横のドット数がテレビの場合と微妙に違っています。もうそれで終わりかと思ったら、「8KウルトラHD」と称して4Kを縦横各2倍にした7680×4320ドットのもので、すでにNHKなどで研究されています。

こういったテレビが出て来たときに対応できるように、我々も目を大切に磨いておきましょう。